



デンマーク日本人会25年の歩み

はじめに

1991年9月15日にデンマーク日本人会が発足し、2016年に25周年を無事に迎えることができました。この25年間は、会員の方々、法人会員の皆様のご支援、毎年活動を支え続けた代々の会長と理事会の努力なしでは語ることはできません。また、様々な活動やイベントは、「日本人会の花」と称えられたボランティアの方々によって支えられてきました。皆さま、本当にありがとうございます。

私たちが、より安全かつ快適に、そして健康やかに生活していくためにも、これからも日本人会に温かいご支援をお願いいたします。

発足から育ちの時期

1991年発足、1992年には活動が本格的に始まった

デンマーク日本人会は、1991年9月15日にコペンハーゲン市内の映画館を借り切って発会式を執り行いました。発足時は186世帯、法人会員15企業・団体でした。「デンマーク日本人会だより」第1号の記事を読むと、当時の高揚感あふれる雰囲気を感じられます。一部抜粋したものを引用します。

これまでデンマークには全国規模の日本人会がなく、従来から数多くの在留邦人からその結成を強く希望されていました。数度にわたる打ち合わせを経て、9月15日に発足するに至りました。日本人会は、今後の活動について、会報及び情報誌の発行並びにお花見会、ソフトボール大会、運動会、映画鑑賞家などの催し物を計画しており、これを会員のみに限ることなく、デンマーク人の方々にも広く参加を呼び掛けることにより、双方の親睦をより深めていくことを基本方針としております。

私も発足時からの会員で、映画館での発会式をよく覚えています。当時の日本人会だよりは、A4サイズの4ページという簡単なものでしたが、郵送された日本語の情報紙を受け取ったときは感激したものです。インターネットもなく、日本の情報は、ほぼ空港のKioskで買える一日遅れの新聞のみという時代でした。

1992年8月1日に発行された「デンマーク日本人会だより」第2号には、東海大学ヨーロッパセンターで行われた第1回総会及びお花見会の様子が書かれています。現在も法人会員として会のサポートをしてくださっている東海大学ヨーロッパセンターには、当時から大変お世話になってきました。ここでの総会、お花見会が恒例となりました。現在は行われておりませんが、この年に、ソフトボール大会、運動会が始まりました。ソフトボール大会のチーム名を読むと、ほとんどが日本の企業・団体が中心に構成されたものと分かります。当時は日本の企業も多く、また東海大学付属高校もありました。1992年には会員数も236世帯となり、発足時に比べるとかなり増えました。

1993年度から1997年 インターネットがなく、日本の情報が取りにくかった時代に「デンマークに暮らす」を発行

阪神大震災が1995年にありました。また、1991年から始まったバブル崩壊の影響が深刻に出てきた時期です。「デンマーク日本人会だより」にも、不況や災害の話が出ています。一方、デンマーク在住日本人の結束は固く、楽しく「お花見会」やソフトボール大会をした様子が報告されています。

1996年には、「デンマークに暮らす」が発行され、会員に無料で配られました。編集部には、シェランはもとより、ユラン、フユンから女性たちが集まり、全く何もない状態から作り上げました。デンマークの歴史から、医療、教育のシステム、買い物や日々の生活に役に立つデンマーク語など、今見ても、盛りだくさんの内容です。

発足当時は大使館内にありました日本人会の事務所は、1997年に、コペンハーゲンにあったJALのオフィスに移転しています。当時、JALはコペンハーゲンから日本まで、直通のフライトを運航していました。デンマーク生活が20年以上になれる方は、当時を懐かしく思い出されるのではないでしょうか。

1998年 天皇皇后両陛下のデンマークご訪問、同年ストアベルト橋、2000年にウアスン海峡に橋が開通

1998年には天皇皇后両陛下がデンマークをご訪問されました。会員の中には、小旗を振ってお出迎えした方もいるかと思

います。

同年ストアベルト橋が開通。そして2000年には、スウェーデンのマルメとコペンハーゲンを結ぶウアスン海峡に橋が架かり、その後始まるマルメ日本人会とのお付き合いのきっかけとなりました。フユン島で、はじめてお花見会が開かれています。「デンマーク日本人会だより」も、12ページほどになり、内容がより豊かになりました。この時期に、これからの日本人会の活動について、会員にアンケートが配布され、同時に「これからの日本人会を考える会」が開催されています。多くの会員が集まり、老後の不安などが話し合われました。1999年に、JALのオフィスが閉店となり、日本人会オフィスはDNP代表事務所、後のミキトラベルへ移転しました。

日本人会として自らの価値に目覚めた時期

2000年会報誌JDnetの誕生 ホームページの開設

会報誌が、現在会員に配布している形となりました。編集部を設立し、また数年後には、レイアウトを専門に請け負うチームも作りました。現在もこの体制で会報誌JDnetを発行しています。

また、デンマーク日本人会の愛称(別称)JDnet冠したホームページが生まれました。JDnetは、Japan Denmark Networkの略称です。デンマーク日本人会が、会員相互、日本人会以外の人たち、例えばデンマーク人、他の団体・組織とのネットワークを作る場になればという願いが込められています。ホームページの開設には、紆余曲折がありました。当時はFaceBookも、スマートフォンもない時代です。インターネットはそれほど使われておらず、ホームページを開設することで、会員に不平等が生じるのではないかという議論にも時間をかけました。しかし、この時期にホームページを開設したことは、現在から考えると素晴らしい判断だったと思います。ホームページを開設したことにより、日本人会理事会には世界中から問い合わせが来るようになりました。またホームページの一部として掲示板を作りましたが、これは今も活発に使われています。

2001年からは、スコーネ日本人会と「餅つき会」を通しての交流が始まりました。これは、現在も続いています。

このころから、コンピュータに関する問い合

土屋理恵（デンマーク日本人会会長）

わせが増えてきます。特に、どうやって日本語を入力できるかという質問が多く出ました。現在コンピュータをデンマークで買っても簡単に日本語を設定することができますが、当時はいろいろな工夫が必要でした。

2002年10周年記念、ロゴが作られる

2002年には、Odd Fellow Palæetにおいて、10周年記念式典が華やかに開催されました。またそれを記念して「デンマークに暮らす 改訂版」が発行されました。現在この一部は日本人会ホームページでご覧になることができます。

この時期に、日本とデンマークの国旗をあしらったロゴが会員のデザインで作られ、会報誌JDnetも3段組みの読みやすいレイアウトを採用するようになりました。

2003年ごろから、寿司がスーパーに並ぶようになりました。このあたりから、現在の寿司ブームが始まります。会報誌を見ると、スーパーに寿司を出している会社にインタビューしています。このころ東海大付属高校が撤退したためもあり、ソフトボール大会の開催が不可能になりました。新しい行事として、「キノコ狩り」、「クリスマス会」などが行われるようになって、現在につながっています。

2005年～2006年JP-EU日本人会(後のENJA)の発足

2005年は、日本EU市民交流年でした。日本人会もいくつかの行事を開催しましたが、フーン島のイーエスコウ城の庭園と城内を借りて繰り広げられたJAPAN FEST は、会員の努力の結晶として素晴らしいものでした。内容も大変豊富で、和太鼓、盆踊り、着物ショー、盆栽など多数の企画が城の美しい背景の中で催されて、一般デンマーク人の日本文化に対する関心をそそり、まさに二国市民交流の一日となりました。日本人会にとっては、このイベントを立ち上げたことにより、本格的に広いボランティアのネットワークが出来上がり、今日につながっているといえるでしょう。同2005年には、市民交流年の催しとして、ほかにもいくつかの企画を持ちましたが、もう一つ特筆されるべきものはEU内の日本人会または相当する組織に連絡を取り、コペンハーゲンでJP-EU日本人会を開いたことです。これが、後のENJA(European Network of Japanese

Associations)の活動へとつながっていきます。デンマーク日本人会が、デンマーク外の組織と会議を持ったのは、これが最初となります。

2005年以降ボランティア活動は、ますます盛んになっています。日本人会のイベントを支えるのはボランティア - 「日本人会の花」という言葉が、会報誌に出てきます。

デンマーク社会における活動内容が定着した時期

2007年～2008年 第一回サクラフェスティバルが開催された。

日本人会以外でも、2005年日本・EU市民交流年が記念されました。デンマークのWienerbrødを日本に紹介して成功を得た高木ベーカリー(アンデルセングループ)が、この年デンマークに多数の桜の苗木を寄贈しました。その大半が人魚姫の像近く、ランゲリニエ公園に根を下ろしていますが、その場所で2007年に、第一回サクラフェスティバルが行われました。その内容も規模も年々見事に育ち、2017年には、いよいよ第十回目のサクラフェスティバルが行われます。

この時期、日本のアニメ文化がデンマークにも流れてきました。同時に、老後の問題、病気になったら、そういう話題が会報誌にも登場してきます。何回かデンマークの国民年金についても特集しました。2008年には、日本のアンデルセングループから、デンマークにアンデルセンベーカリーが進出しました。日本のアンパン、抹茶パン！ 以来、日本人会のイベントがあるとケーキやパンをお願いしています。

デンマーク政府がデジタル化に舵を切った時期にもあたります。すべてインターネット、スマートフォンに移行していく傾向に、日本人会も対応に苦慮しました。何回か、電車の乗り方の特集を組みました。

2009年 ユランでの活動が本格的に始まる。持続可能な社会に対する取り組み

2009年から、ユランでの活動が本格的に始まりました。COP15がコペンハーゲンで開かれ、世界

の注目がデンマークに集まりました。日本人会も特集を組んでいます。ここから、地球温暖化、デンマークの二酸化炭素削減への向けての政策に関する記事が会報誌が増えてきます。

それと同時に、第121次IOC総会がデンマークで開かれました。その際2016年オリンピックの開催国として東京が候補に上がりましたが、残念なことにそれは成功しませんでした。しかしそれを応援して私たちデンマークに暮らす日本人は、大いに盛り上がりました。

この年に、邦人相互の援助と交流を中心にした活動しているKlub Japanが設立されました。Klub Japanは日本人会の中の組織ではありませんが、日本人会の枠の中では実行が難しい活動をしています。日本人会総会で活動を紹介してもらい、会報誌に記事を書いてもらう、日本人会がENJAで得た情報を共有するなどの協力関係を築いています。

2010年 餅つき用石臼の購入。

餅つきが、日本人会の代表的な行事となりましたので、2010年には、待望の餅つき用石臼を購入しました。現在、日本人会にはユラン用とシェラン用の石臼を二つ所有しています。

この年から日本人会は本格的にコペンハーゲンのサクラフェスティバルに協賛組織として大々的に桜祭りに参加、以来種々のタレントを持つ会員の活躍でサクラフェスティバルにはなくてはならない存在となりました。

2011年 東日本大震災

2011年3月11日に東日本大震災がありました。私たちも衝撃を受け、様々な支援活動を企画しました。日本人会でも津波口座を開設し寄付を募りました。

秋には、フレードンスボー市が在日本デンマーク大使館と連携して、東日本大震災被災地の宮城県東松島市の中学生を招き、ホストファミリーや学校での交流がありました。日本デンマーク外交150周年記念の一つとして、2017年1月18日に国立美術館でJapanomania展覧会の開会式がありましたが、そこで当時中学生だった3人と再会して感激しました。

2012年～2013年 東松島市との交流、IT化にまい進するデンマーク

東日本大震災被災地の仮設住宅の困らんが不足している対策として、日本人会のクリスマス会のコンセプトを紹介して欲しいとの依頼が入り、2012年初冬、当時の会長のマイヤー和子さんが、仙台、福島、東松島と日本側のボランティアと一緒に回り、デンマーク式のhyggeを紹介して喜ばれました。現在もデンマーク式クリスマスを行っている地域があるそうです。このころから、デンマーク社会のIT化が加速していきます。数十年使用されて定着している個人登録番号CPRを基盤に、公共機関からの伝達事項そのほかデジタル化されましたし、S電車で長年使われてきたKlippekortが販売停止されることになり、何度か新しいシステムの特集を会報誌でも組みました。また、IT特集やコンピュータでどうやって日本語を打つかなども特集しています。また北欧の自然を大切にしたいと評価され、コペンハーゲンのレストランNomaが世界一となりました。週末はカフェでコーヒーを飲んだり、友人との会話で、今おいしいレストランはどこ？

などという会話で盛り上がるようになってきました。

2014年～現在 日本人会25周年。より安全かつ快適に、そして健やかな生活のために

嬉しいニュースとして、前会長フィッシャー緑さんが、長年の日本人会貢献そのほかの功績を評価され、在外公館長表彰(2014年)、外務大臣表彰(2015年)、引き続き旭日双光章(2016年)を受けました。緑さんは、「認めていただいた内容は、邦人の方々の協力もあってのこと」と、語っています。

2014年には会則の大改訂をして、会の目的である会員相互間の親睦及び交流の促進、日本とデンマーク間の親善の推進、本会会員にとって有用な情報の収集に賛同する人は、日本人であるにかかわらず、会員になることができるようになりました。同時期に「ニホンジンカイ」と日本語で当会をデンマーク社会に浸透させ始めようとなりました。

日本の人気番組「Youは何しに日本へ？」

」で、フン島出身の青年二人が人気者になりました。会報誌でも、インタビューをしています。この頃から、日本の企業のフンやユランへの進出が始まりました。また日本人会も西日本デンマーク商工会議所、福岡デンマーク協会との交流が始まりました。

2015年、テロもコペンハーゲン市内で起こりました。自分を守り、より快適に暮らし、そして家族と一緒に健やかな生活を送るために、積極的に情報を集めるような時代になったと思います。そのためにも、日本人会によるネットワークがより重要になってくるのではないのでしょうか。

日本人会では、餅つき会、サクラフェスティバル、キノコ狩り、ワラビ採り、クリスマス会などを積極的にシェラン、フン、ユランの三拠点で行っています。また、「シニアの会」、「歌の会」、ユランの「寺子屋」、FaceBookでの子育て支援などの活動を通して、会員のより充実した生活に貢献していきたいと思っています。

年度	大使（敬称略）	デンマーク日本人会会長	主なできごと
1991 - 1993	松田慶文	有賀正明	1991年9月15日に日本人会が発足 事務所は大使館内に設置。
1994 - 1995	苅田吉夫	大田不二夫	お花見、ソフトボール大会など、会員の交流が盛んとなる
1996 - 1997	須藤隆也	柴田義明	1996年「デンマークに暮らす」発行 1997年 JALオフィスに日本人会事務所を移した。
1998-1999	折田正樹	有賀正明	1998年天皇皇后両陛下のデンマークご訪問 1999年これからの日本人会を考える会の開催。 DNP代表事務所に日本人会事務所を移した。
2000	折田正樹	フィッシャー緑	2000年会報誌JDnetの誕生 ホームページの開設
2001 - 2002	内藤昌平	フィッシャー緑	2001年スコネ日本人会との交流が始まる 2002年10周年記念
2003 - 2005	小川郷太郎	フィッシャー緑	2005年 JP-EU日本人会(後のENJA)の発足 Egeskov城で「日本」festivalが行われた。
2006 - 2008	岡田真樹	フィッシャー緑	2007年 第一回サクラフェスティバル この頃日本のアニメが ブームに。
2009	近藤誠一	空席	2009年COP15。 ユランでの日本人会活動が本格的に始まった。
2010 - 2013	佐野利男	マイヤー和子	2011年 東日本大震災 IT化にまい進するデンマーク社会
2014 - 2016	末井誠史	土屋理恵	
2017	鈴木敏郎	土屋理恵	2017年 日本人会25周年、日本デンマーク外交150周年、 サクラフェスティバル10周年